

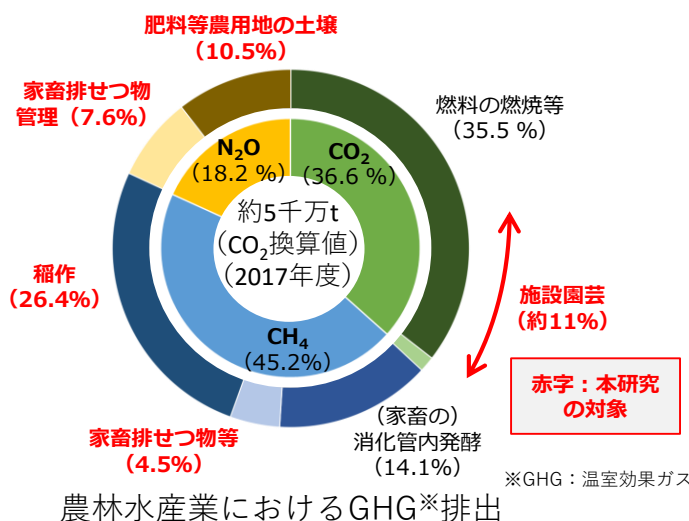
脱炭素型農業実現のためのパイロット研究プロジェクト

1. 研究目的

実証地区において、水田、施設園芸、畜産についてGHG排出削減と生産性向上を両立する緩和技術システムを開発し、農業分野における気候変動緩和技術導入を加速させ、脱炭素化に貢献することを目的とする。

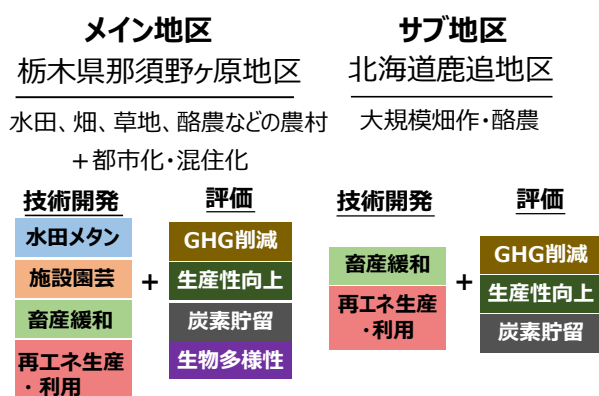
2. 研究背景

全世界的に温室効果ガス削減が求められている中、我が国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言した。農林水産業からは、水田メタン、施設園芸、家畜排せつ物管理からの排出が多く、その削減が重要であるが、農業分野におけるGHG排出削減技術の導入は、取組の主体となる農業者がメリットを得られにくいことが課題となっている。



3. 研究内容

- ① 水田発生GHG排出削減技術と生物多様性保全の最適化
- ② 地域資源を活用した園芸施設におけるGHG排出削減と生産性向上技術の開発
- ③ 有機性資源エネルギー利用促進を支える畜産・農地の資源循環営農技術の開発



実証地区と導入技術・評価項目

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・生産現場への導入が最適化された緩和技術等を5種以上開発
- ・脱炭素型農業の拠点地域を1カ所以上構築



期待される効果

- ・2050年農村地域RE100達成に向けた導入技術とインセンティブの提示
- ・脱炭素型農業技術の普及・社会実装

研究代表機関：農研機構

共同研究機関：栃木県、道総研、産総研、早稲田大学、慶應義塾大学、ネポン(株)、ホルトプラン(同)